

真備で飾る おひな様

川崎医福大生らと人形作り

西日本豪雨の影響でひな人形を飾れなくなった子どもたちのため、倉敷市松島の川崎医療福祉大医療福祉デザイン学科の学生26人が2日、同市真備町箭田の臨時真備児童館で、モバイル型ひな人形を作る講習会を開いた。小学生や保護者ら約60人が集まり、学生の指導

で色とりどりの人形を作った。

子どもたちは学生に教えてもらいながら、毛糸や紙コップなど身近な材料を使って人形作りに挑戦。紙コップのおひな様に顔を描いたり、マスキングテープを貼ったりして「現代版つるしびな」を完成させた。



学生の指導を受けながらモバイル型ひな人形を作る子どもたち。倉敷市真備町箭田

この会の開催は、自宅も実家も真備町にある同学科の森絵美助教(39)の経験がきっかけ。森助教のひな人形は実家に保管されていたが、豪雨で実家が被災して汚損。処分したという。被災者は仮設住宅などに住んでいるため、飾る場所がないという話もあった。

仮設住宅で暮らす箭田幼稚園の仁後春乃ちゃん(6)は母知代さん(36)と参加した。知代さんによると、ひな人形は同町箭田の実家にあつたが、実家は豪雨で被災し、ひな人形も泥だらけになって処分しなければならなかったという。

(菅野みゆき)